

市場環境に係る基礎情報収集調査

e. 競合製品 (1/4)

■ バングラデシュ国におけるmiup社「リスクアセスメントシステム」に類似する製品

- バングラデシュ国内では、患者と医療機関とを繋ぐ遠隔医療を提供する会社は比較的多くなっている。
- 他方で、医師による診察・診断を含むものの、モバイルアプリケーション等のデバイスを活用した簡易検査・健康アドバイスを主としたサービス提供者は希少であり、弊コンソーシアムにて調査した結果では、「CMED Health Limited」および「Jeeon」の2社が運用実績を有していた。
- 「Jeeon」については、2015年からサービスを開始したものの、採算性が合わずサービス提供を中断していることが明らかとなった（聞き取り調査より）。一方、「CMED Health Limited」へは関係者へ接触できず、デスクトップ調査をもとに、競合製品調査を実施した。

市場環境に係る基礎情報収集調査

e. 競合製品 (2/4)

会社名	CMED Health Limited	設立年：2016年、従業員数：38名
所在地	4th Floor, House No# 460, Road No# 31, New DOHS, Mohakhali, Dhaka-1206.	
事業内容	NCDsの罹患、死亡率低減を目指し、一般から医療従事者が使える低コストかつ使いやすいスマート健康管理デバイスの提供、及び技術サポートを行っている。デバイスはFDA認証も受けている。	
製品名	1. Smart Health Monitoring Kit (計測機器), 2. Digital GP Model (IT健康管理システム)	
製品画像 及び 製品の特徴	  <p>Smart Health Monitoring kit</p> <p>1. Smart Health Monitoring Kit: 専用のスマート健康管理機器を通じて個人のバイタルデータを取得し、モバイルアプリ上で管理・医療従事者への共有が出来る。</p> <p>2. Digital GP Model: 月100タカで月1回のオンライン受診等の医療サービスを受けられる。既にジャマルプール県、メランダ郡のナヤナガールユニオンで導入されている。</p>	
現在、及び 今後の展開	現在DGHSと連携し、AI技術を活用したCOVID-19サーベイランスプラットフォームを構築し、コミュニティでの注意喚起、スクリーニング、陽性者及び陽性疑い者へのフォローアップなどに取り組んでいる。	

市場環境に係る基礎情報収集調査

e. 競合製品 (3/4)

会社名	Jeeon	設立年： 2014年、従業員数：約40名
所在地	D-1, 5/1 Block E, Lalmatia, Dhaka – 1207, Bangladesh.	
事業内容	農村部の罹患者へ質の高い医療サービスを提供するために、地方仲介者へのトレーニングプログラムを実施したり、機器提供によって医師との遠隔診療を容易にする取り組みなどを行っている。	
製品名	農村医療従事者へのトレーニングプログラム, Jeeon connect	
製品画像 及び 製品の特徴		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農村医療従事者（RMPs : rural-medical-practitioners）などへのトレーニングを行うことによる、医療能力の開発や、ビジネスアイデアや新たな医療技術の紹介・支援を行っている。 2. Jeeon connectという薬局向けのモバイルアプリケーションを提供しており、そこから必要な製品の選択、価格計算、注文することが可能（医薬品在庫管理支援）。また、簡易検査による健康相談も提供。 	
現在、及び 今後の展開	現在、4,330の薬局とネットワークを構築している。簡易検査による健康相談は採算性が合わず休止中。	

市場環境に係る基礎情報収集調査

e. 競合製品 (4/4) 競合製品についての優位性検証

既存のCMEDやJeeon提供サービスは医療従事者がNCDsリスクチェックに関わるモデルとなっている一方で、miup社提供サービスは、**非医療従事者でも提供可能である点に優位性と課題**がある。サービスの品質向上を進めつつ、例えば**CMEDとは協業可能性を探る**ことで、全国的に社会問題化してきているNCDsリスク患者について、**汎用性優位を活かした中・低所得者層へのアウトリーチにポテンシャル**がある。

評価項目	miup社 (リスクアセスメントシステム)	CMED社 (Smart Medical Platform)	Jeeon社 (Jeeon connect)
導入の簡易性	高い: 使用デバイスは国民普及率97% ^{*1} の携帯電話のみ。	中程度: 専用の簡易携帯検査キット(Smart Health Monitoring kit)と携帯電話をデバイスとして使用。	中程度: 使用デバイスは、血圧計、簡易血糖値検査キット、パルスオキシメーター等と携帯電話。
サービス価格	高い: 患者は医療機関への受診料を払うのみであり、NCDsリスクチェックは無料で受けられる。	中程度～高い: 具体的な金額情報は入手できなかったが、地域住民が低価格でNCDsリスクチェックを受けられる価格設定となっている。	低い～中程度: 患者はNCDsリスクチェック・診断及び健康相談で4USD/人を支払う。受診不要の患者でも診察料を支払う仕組みになっている。
必要人材	高い: 非医療従事者である薬局スタッフが扱える。携帯電話のアプリケーションに示される質問に答えてもらうことでサービス提供可能。	中程度～高い: 既存のコミュニティヘルスワーカー（医療従事者）が在宅者を訪問し簡易検査キットによってNCDsリスクチェックを行う。	低い: 診断時に遠隔ではあるが医師の介入が必要な仕組みになっている。
国内での汎用性	高い: NCDsリスクチェックの際に、医師の介入を必要とせず、携帯電話さえあれば、NCDsリスクチェックを受けられる。	高い: 既存のコミュニティヘルスワーカーのNCDsリスクチェックを支援する、あるいは人材創出をターゲットにしており、同人材が活動する地域全般へ適用可能。	高い: サービス提供に必要なデバイスが容易に揃う薬局を基点として、NCDsリスクチェック・診断・健康相談を行っている。
サービスの品質	中程度（今後向上する）: NCDsリスクチェックの精度は薬局・医療機関からのフィードバックを継続的に受け、アジャイル開発を継続。	高い: 検査キットを使用する人材へのトレーニング、NCDsリスクの高い患者へは遠隔診療も提供。	高い: 遠隔ではあるが、医師の介入があることで品質が保たれている。